



前橋高校の同窓会のゴルフコンペに夫婦で参加しました。引退された方が多く、本当に楽しそうに仲間と楽しんでいました。現役世代はスコア競争や仕事、そして自慢話が多いので世知辛い(勘定高い)のですが、70歳以上の先輩方は既にそういうことは達観しているようで、人生を楽しんでいます。

前橋高校は1877年創立の男子校で質実剛健と気宇雄大を旨とし、私たちは真冬でも素足に下駄で赤城おろしの寒風にもやせ我慢を通したものでした。同じ男子校である高崎高校との定期戦では騎馬戦など血みどろの戦いをし、応援歌や凱旋歌を歌いながら帰ったことが忘れられません。がり勉を恥とし、男らしさが何よりも優先されるような高校生活は、私の人生の骨子を形成したと思います。

娘たちも女子高や女子大を出ていますが、思春期に異性と日常的に接しないほうが、健全な成長を遂げるのではないかと考えています。女性に優しく接し、紳士たれ、という思いが先輩方にも貫かれています。

私の理想は晴耕雨読で、物を造るのも好きなのでレンガや木でいろいろなものを作ります。田舎に家を建て、自分で露天風呂やバーベキューテラスを造ったら、なんと楽しいものかと思えますが、一緒にやれそうな人がいません。難しい造作は一人では無理なのです。社会や組織について見識ぶっても、長い交友は出来ません。老いたら、することがないという人が多いようですが、自分を磨いていないと付き合ってくれる人がいなくなるようです。

夫婦の仲が悪いのは、私から見ると殆ど夫の側に責任があるように思われます。妻を部下のように、奴隷のように扱って、夫も慕われることも尽くされることもないでしょう。女性は、言葉だけで誤魔化されるほど愚かではありません。長年の腹いせでしようか、夫に仕返しをする高齢のご夫妻を見受けます。引退したら妻から部下のように奴隷のようにされる男性ほど哀れなものはありません。

愛するということは、相手に愛されるように行動することだと思えます。私は妻が行けないようなところには行かず、妻が嫌なことにはしないように心がけています。不器用な妻ですが、私が助けると嬉しそうに喜びます。人生は、そんなもので十分ではないでしょうか。

事務長 柏崎久雄

*

感染症の疑いのある方は廊下の入口から
インフルエンザ、風邪、おたふくかぜ、はしか、風疹等が疑われる方は、正面入り口横の中央通路わきにあるインターホンでご連絡ください。トイレなどをご使用の後には、必ずよく手を洗ってください。鼻をかんだティッシュも備えつけの袋に入れてゴミ箱に入れてください。院内感染を避けるためご協力ください。第2待合室も病態別に隔離して診察します。

*

千葉市の風疹予防接種助成事業が始まります。対象者は、妊娠を希望している女性と、妊娠中又は妊娠を希望している女性の夫で、自己負担3千円で風疹ワクチン又は麻疹風疹ワクチンの接種が可能です。9月末までです。

*

5月14日(火)院長が小中台小学校の内科健診で出張のため、午後の診療は15時からとなります。
5月21日(火)院長が4カ月健診で出張のため、午後の診療は15時からとなります。

*

機能性低血糖症の国会勉強会を5月20日に予定しておりましたが、予定が折り合わず中止となりましたので、休診はありません。

*

成人用肺炎球菌予防接種の市からの助成金がH26年3月末日まで延長となり、対象は千葉市在住の75歳以上の方でご予約制です。

*

「聖書を読む会」 5月21日(火) 2時～2時20分
病児保育ノア。利用料金は一日2000円です。千葉市の事業なので、市内在住の方に限りです。情報や方法はホームページか、受付で配布する資料をご覧ください。

*

㈱ヨーゼフでは、5月7日(火)～6月7日(金)「ヌクレオB、インシトールB3、スーパーイーストナイアシン、スーパーイーストB12葉酸」のキャンペーン販売を行います。詳細は店頭でご確認下さい。これらの購入は医師処方とはなりませんので、ご注意ください。

*

**一般社団法人低血糖症治療の会の第19回研修会は、5月23日(木)10時半より16時まで、ホテルグリーンタワー幕張で行います。会費6000円(食事込み)会員外は8000円です。会費はヨーゼフポイントもご利用できます。精神科医の講演もあります。治療の会の年会費2000円も納入してください。詳細は事務局にお問い合わせください。
info@teiketou.com**

＜機能的低血糖症の新基準の提言と発達障害への取り組み＞

精神症状の原因として機能的低血糖症があることをマリヤ・クリニックは社会に訴えてきたのですが、書籍やホームページ或は新聞雑誌などで情報を提供して心当たりがあるとして来院されても、機能的低血糖症と精神病との診断を、症状を診るだけで行うことは健全であるとは考えておりません。精神科や神経科はどうしても症状を診る、ということになり、科学性を取り入れることには難しさがああり、そのような観点で機能的低血糖症を診ると、同様な方法で診断と治療をしがちなものだと思います。

当院の診療方針の一つに、EBM（Evidence Based Medicine 証拠に基づいた治療）がありますが、病気には必ず原因があり、内科治療についても対症療法ではなく、原因を検査などで突き止めたうえで、その治療方針と方法を患者さんに説明して治療することが必要だと考えております。内科の治療も症状に合わせて行うことにより却って、難病化してしまうことも考えられます。本来は検査結果をベースに診断をし治療を行うことが必要なのです。機能的低血糖症を病気として社会的・医学的に認知されることの重要性は、検査可能な内科的治療によって精神・神経症状が改善されるということなのです。

ですから、後発の機能的低血糖症を診る医療機関が、症状や1回きりの血液検査で機能的低血糖症と診断していることに関しては、違和感を覚えております。また、来院される患者さんも、既に低血糖症と自ら診断して来られて、砂糖断ちで治るとか、精製食品を摂らなければ良い、などと思いつくものにも無理があります。機能的低血糖症は病気であり、医師による継続的な治療が必要なのです。糖尿病になっても、やせればよい、と思いつんでしまい容態が悪くなる患者さんがいるのと同様です。むろん、内科疾患が原因ですから改善すれば、来院やサプリメントの必要は減り、全快するということが多くあり、社会で元気に働いている人も多くおります。軽度の方は、安易にしていると次第に重症になっていき、働くことができなくなることもあります。速やかに治療に当たると全く支障なく仕事を続けることができます。

機能的低血糖症の診断にはOGTTという5時間の精密経口耐糖能負荷試験をして、血糖値の変動やインスリンの分泌そして体温の変動を確認し、更に検査時の様態によってホルモン検査などを行うことによって、その患者が機能的低血糖症であるか否かを診断します。

ところが、1975年のニューボールド博士が発表した診断基準の5番目に、「血糖値のカーブに関わらずOGTT実施中に、めまい、頭痛、混乱、発汗、憂鬱等の症状が現れた場合。」は機能的低血糖症であるとされています。それで、そのような症状が現れた患者さんに対して機能的低血糖症として治療を試みてきました。しかし、そのような場合に「低血糖値」が測定されないため、患者さんからは不審な思いを持たれることが多くありました。特に、インスリン分泌と血糖値に相関性がない、いわゆる「無反応性低血糖症」の治療に苦慮してきました。また、血糖値の上下変動の激しいタイプは境界型糖尿病と60（mg/dl）以下の極端な低血糖がある場合が多く、感情的にも起伏が激しいので、十分な理解に基づく自己管理が必要です。

現在、ある大学病院の研究室との共同研究のやり取りで、それらについて「機能的低血糖症」という定義について、適切な病名なのかどうかということが検討されました。むろん、機能的低血糖症の症例は多くありますが、上記のような症状にまで「機能的低血糖症」の病名を当てはめることには困難があることは、私どももこれまでの治療で考えさせられてきたことです。マリヤ・クリニックは、日本で最初に「機能的低血糖症」を紹介し、これまでに3000以上のOGTTを検査してきた医療機関として、これまでの「機能的低血糖症」は「血糖不安定症候群」としてまとめたうえで、治療を進めていくことを検討中です。

これまで米国を中心に「機能的低血糖症」は、医師や研究者が食餌の悪さを原因として、血糖調整能力に異常をきたして精神や神経に影響を及ぼす病気として認知されてきましたが、医学会では公式に承認されたものではありませんでした。それは、「機能的低血糖症」の中に多様な要素が含まれており、それを「機能的低血糖症」としてまとめることに難しさがあるからです。それぞれの定義づけを別に持つ方向性で、新しい基準作りの方向で研究しております。その枠組みは、以下のようなものです。

<血糖不安定症候群>

① 機能性低血糖症

血糖降下剤やインスリン注射による医原性の低血糖やインスリンノーマ・下垂体や副腎の腫瘍によるものを除く。

② 代謝障害によりインスリンと血糖値の相関が不安定。

発達障害の患者には、このパターンが見られました。

③ 血糖調整異常

副腎、甲状腺、脳下垂体などのホルモン分泌機能の低下を原因として、血糖値が不安定、不健全。

④ その他

有害ミネラルや化学物質による悪影響。自律神経の不調、運動不足や生活の不安定による血糖調整の短期的異常。ペットボトル症候群などの急激な精製糖質の過剰摂取による症状。その他血糖が不安定になる諸症状。

血糖は身体の主要なエネルギーであり、脳は多くのエネルギーを必要としているので、血糖の不安定な供給は身体全体に悪影響をもたらします。同時に、ホルモン分泌の異常などももたらすので、格別に精神神経状態に悪影響をおこすのです。わたくしどもは、このような「血糖不安定症候群」の現実を明らかにし、精神症状に関して、まず内科的検査を行うべきであるということを主張しているのです。

☆ 発達障害の治療を始めるまで

2006年に私どもは、その代謝障害の検査と治療を模索する中で、米国で自閉症の治療に用いられている検査と治療法が有効なことに気が付きました。精神症状の改善に非常に有効であり、私どもの「機能性低血糖症」の治療は著しく発展しました。この治療法については、私どもはオープンにして公表してきましたが、形式的には検査を採用しても、個体差を確認せずに一律的に治療法を適用しようとするので、他の医療機関では、それほど成果は上げられていないようです。

そのような中で、自閉症のお子さんを抱えている親の方々が伝え聞いて来院されるようになりました。私たちが発達障害の治療をすると案内したのではなく、アメリカで行っている検査をしているということで来られたのです。その子供たちの毛髪から重金属の値を調べると驚くほどの高値が出てきました。ある種の自閉症と水俣病の症状の類似性が指摘されることがあります。私たちも自閉症すべてがそうであるとは言いませんが、有害ミネラルの影響による症状の方が多いは事実でしょう。ただ、アメリカで実施されている有害ミネラルのキレート療法は、危険性が高いので開業医が扱うものではないと判断し、模索してきましたが、最近になって、対処法を解決してきました。

食物アレルギーも日本では検査されない遅発性アレルギーIgGの検査が精神・神経症状と関わっているとアメリカで指摘されているので、検査を行い、その高値の食物を患者さんの食事から除去したところ、多くの改善例を得ました。

自閉症の子供たちに小麦から体内で生成されるペプチドのグリアドルフィンと乳製品のカゼインから生成されるカソモルフィンが悪影響を及ぼし、ヘロインやモルヒネのような働きをすることがわかってきました。このペプチド検査を行うことにより、自閉症の症状には著しい改善を見せました。むろん、検査をきちんとしなければなりません、これも日本ではされていませぬので、認可手続きを経て尿検体のアメリカへの発送をしています。

体内では代謝が行われると、副産物として様々な有機酸合成物などが生成され、尿中に排泄されます。有機酸検査(OAT)は尿中の有機酸合成物、およびその他の代謝物質の量とバランスをみることで、身体の代謝機能に異常があるかどうか、および有害な有機酸の存在と量を調べます。身体の中にある細胞の代謝の結果とし

て排泄された有機酸合成物の量やバランスは神経系機能、ビタミン活用、体力、エネルギー代謝、ホルモン活用、筋機能の状態を反映しているのです。機能性低血糖症の患者で、インスリンが分泌されて細胞内に糖分を取り込んでもエネルギー不足で体調の悪い人が多くおりましたが、この代謝の改善をすることにより、多くの改善が見られました。腸壁に損傷がある患者や自閉症患者、広汎性発達障害者、先天的酵素欠損の体質患者には、通常では見られない種類や量の有機酸合成物が尿中に排泄される場合があります。

☆ 治療にあたって

発達障害者支援法が施行されたのは2005年4月のことで、その症状に関しては、一般に治療や改善は難しく、支援することによって症状の緩和や生活の支障を軽減することを目的としているようです。自閉症、発達障害と診断されたら、もはや治る見込みがないとされているようです。

「機能性低血糖症」の治療を始めたときに、精神科医や神経科医から猛烈な攻撃を受けました。そういう難病の治療をむやみにアピールして困っている患者さんを洗脳し、金儲けをしようとしていると考えたのかもしれませんが。テレビや雑誌にも掲載される中で、次第に啓発され、最近では大学病院や精神科医からも患者さんを紹介されるようになりました。しかし、社会的に認知されてきた中で、安易な機能性低血糖症の治療を行っている医療機関があることが気がかりです。砂糖断ちやサプリメントの摂取などの簡単な治療で治る人もいますが、一律的な治療は患者の個性差をないがしろにした健全ではないもので、却って誤解を生みだすと懸念しております。「機能性低血糖症」は様々な内科的症状をも呈するので「偉大なる物まね師」と言われてきたこともあり、併発する諸症状についての「機能性低血糖症」的治療も並行して行わなければなりません。「これだけで治る！」という医療機関にはくれぐれもご注意ください。

発達障害の治療には多くの学ぶことがありました。精神障害・神経障害そして脳の働きに支障があるとされる発達障害の症状と治療には類似性があり、個人差もありますが、その障害が顕著に現れることによって、精神・神経症状を訴えながらも社会で働いている患者さんの症状の原因を捉えやすくなってきたのです。人間の身体の回復力・治癒力・免疫力は大したもの、障害となっている要因を取り除き、細胞の回復に必要な栄養素を摂り、さらに機能回復の様々な手段を取ると、かなりの度合いで治癒され、働きが健全化していくのです。特に、アスペルガー症候群として診断されてきた症状は、2013年5月にその分類がなくなるそうですが、脳に与えられる障害を取り除くことによってかなり改善しそうです。

マリヤ・クリニックでは、発達障害に関する診断はその専門医ではないので行いません。発達障害の患者に見られることもある内科的異常を内科・小児科として検査によって確認し、その治療を行うだけです。ですから、私たちの治療の趣旨を理解し、ご了解いただけたら、ご関心がある場合にはご来院ください。説明にも時間がかかり、現在の通院患者への対応もあるので、予約をしてからお願いします。メールや電話ですべてを聞いてしまおうということは、医療機関にとっては大変困ることですから、ご遠慮ください。あるいは、掛かり付けの医師に相談して、同様な治療を試みることもありうるかと思います。また、医師の方であれば、ご連絡くださればもっと細かく具体的にお知らせすることもできます。むろん、それに関して費用や料金を請求することはありません。病気で困っている患者さんたちに最善を尽くして治療を試みてきたつもりです。

＜ 診 療 時 間 ＞

月曜～金曜（午前8時30分～12時10分、午後2時30分～5時30分）

土曜（午前8時30分～12時10分、午後2時～4時）

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・各種健康保険取扱機関
- ・生活保護指定機関
- ・介護保険取扱機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・自立支援医療機関
- ・身体障害者認定医
- ・各種健康診断
- ・小中台小学校校医
- ・栄養療法(分子整合医学)



(携帯サイトへ)